

## 屋久島生態系モニタリング

### 西部地域におけるヤクネゴヨウ分布調査 (平成16年度調査)

・西部地域群落の分布状況調査

西部地域におけるヤクネゴヨウの分布域は、おおむね標高300m~800mの範囲内であるが、北部ほど比較的高標高箇所に、南部ほど低標高箇所に集中している。

5年前と比較し分布上の変化はほとんどみられなかった。ただし、聞き取り調査によって2箇所の主要群落が新たに発見追加した。

なお、数10年前に猛威振っていたヤクネゴヨウへのマツ材線虫病は、現在小康状態にあり、この5年間に於いて小群落や主要群落を壊滅させるほどの新たな被害は確認されなかった。しかし、一部のヤクネゴヨウには、マツ材線虫病によると思われる部分枯れが見られた。

さらに5年前にはみられなかったのだが、瀬切川河口付近のクロマツ数本に、マツ材線虫病による枯死木が確認され、ヤクネゴヨウへの伝播が心配される。

林野庁長官と、先月23日、尾山三田九折皮剥離被し害た修枝を状況視察や

縄文杉の樹皮剥離被害の状況視察

屋久島庁長官視察が



縄文杉と対面

林野庁では、人工林の整備の推進は勿論のこと、自然林の保全も重要な課題として取り組んでいる。特に、屋久島の自然環境を保全し、持続可能な観光地としての発展を図るため、森林保護員を養成し、地域住民の協力を得て、森林のモニタリングや保全活動を実施している。

### 森林保護員によるパトロールを開始

祖父母山、霧島山となつてい

第二日目は、悠久の杉の

### 屋久島の植物



マルバヤマシグレ (すいかざら科)



縄文杉の枝を視察



制服姿の森林保護員

のの様子でした。その後、尾

屋久島の固有変種。霧島山

## 平成17年月別・地点別雨量観測データ

※「この雨量観測は気象業務法6条1項1の研究のために行う気象の観測となっています。」

観測点	保全センター	宮之浦林道 33支線	白 谷 216林班	小 杉 谷 事業所跡	永田かか 岳 付 近	大川林道 終 点	淀川登山道 入 口	黒味岳山頂 付 近
標 高	5m	500m	560m	680m	730m	1,020m	1,380m	1,800m
1月	(107.5)	(25.5)	(0.0)	(12.0)	欠測	(138.5)	(64.5)	105.0
2月	315.0	(1.5)	(0.5)	552.0	欠測	(409.5)	欠測	340.0
3月	266.0	344.0	278.5	338.5	欠測	欠測	欠測	276.5
4月	158.0	248.5	153.5	225.0	欠測	(127.5)	欠測	203.0
5月	288.0	326.0	326.5	427.5	欠測	430.0	欠測	388.5
6月	890.0	1,207.0	965.0	1,346.0	欠測	1,200.0	欠測	1,094.0
7月	298.0	328.5	288.0	337.0	欠測	322.0	欠測	440.0
8月	188.0	211.0	340.0	452.5	欠測	422.0	欠測	449.0
9月	890.0	1,325.5	1,434.0	1,583.0	欠測	1,358.0	欠測	(513.0)
10月	411.0	438.5	681.0	602.5	欠測	455.0	欠測	欠測
11月	166.0	184.0	210.0	227.0	欠測	192.5	欠測	欠測
12月	387.5	518.5	663.5	477.5	欠測	421.0	欠測	欠測
合 計	4,365.0	5,158.5	5,340.5	6,580.5	0.0	5,476.0	64.5	3,809.0

※ ( )書きは月の一部を集計しているもの。

## 標 高 別 雨 量 比 較 表

